



7月号 令和元年6月28日発行

荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [Tel 911-0149]

アドレス [http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



「一つの言葉の重み」

～言葉によるコミュニケーションの大切さ～

校長 伊藤 智樹

「校長先生行っていらっしゃい！」出張のため、私が職員玄関を出たときに子どもが声をかけてくれた言葉です。校門を出てからも私は心の中に温かいものを感じました。

私たちの生活の中で、言葉によるコミュニケーションは欠かすことはできません。その中で使われる言葉には、様々な意味や力があります。一つの言葉によって人は嬉しくなったり、悲しくなったりします。

- 言葉は、人を喜ばせることができる。
- 言葉は、人を助けることができる。
- 言葉は、人に感動や勇気を与えることができる。
- 言葉は、人を悲しませたり、傷つけたりすることがある。



上記は、言葉のもつ力の一例です。人は、温かみのある言葉によって励まされたり勇気づけられたり、その反対に冷たい言葉により落ち込んだり自信をなくしたりすることがあります。

20年以上前に新聞の投書欄に掲載されていた文をご紹介します。

夏、信州のあるお寺を訪れたとき、案内所の窓口にかかれた色紙の言葉に思わず引きつけられた。「たった一言が人の心を傷つける。たった一言が人の心を温める」それまで私は、一言で人を傷つける経験が多くあり、そのたびに後悔をしてきた。～中略～そんなこともあって色紙の文字が一層私の心に迫ってきた。窓口に住合わせた老住職に「よい言葉ですね」と言うと老住職は答えた。「私の自戒が込められているのです。この年になっても人の心を傷つけているのではないかと、思うことがあります。言葉がある限り人間の業でしょうか。でも心掛ければできることはあります。無造作に言葉をはかないこと、そして間をおいてみることです。」

学校生活の中では学年問わず、子どもたちが「死ね」「むかつく」「きもい」などの言葉を発していることがあります。子どもたちにとって悪気なく何気ない気持ちでふざけ合っている場面で使うこともあるかもしれませんが、言われている人や周囲で聞かされている人は決して良い気持ちはしません。これらの言葉を使ってどんなに優しく相手に伝えても心にチクチク刺さる言葉です。

周囲で聞いている人にとっても同様です。このような言葉が市民権を得るとは思いません。「死ね」「うざい」「きもい」という言葉は絶対に使ってはならない言葉だと思います。

新聞の投書欄にあった老住職のように相手の気持ちになって自分を振り返ることができる心構えと姿勢が大切です。子どもたちには、温かい励まし言葉や、友だちの良いところを認めていく言葉、元気の出る言葉をたくさん使って欲しいと思っています。



言葉によるコミュニケーションの大切さ、言葉の重みについて子どもたちが実感できるように日々の指導を引き続きしていきたいと思っています。